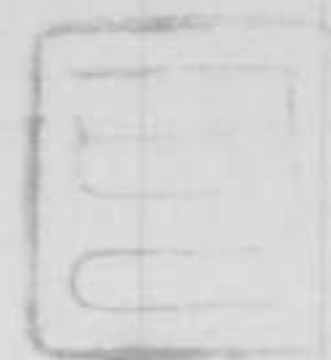




東京帝國大學教授加藤繁叙勲取消ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十四年五月十八日

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎



内閣

二一

文勳第一〇号

昭和十四年五月十八日

昭和十四年五月十七日内閣書記官長



内閣書記官長



内閣總理大臣

賞勳局總裁

東京帝國大學教授正五位加藤
繁ハ積年勲勞ニ依リ叙勲ノ件左
記頭書ノ通發令相成候處右ハ既
ニ大正八年六月十九日附勲八等ニ
叙シ白色桐葉章ヲ授ケラル趣ヲ
以テ該叙勲取消方主管長官ヨリ
上奏有之調査ヲ遂クルニ今更不都

349

訂 正

訂正理由

撮影ミスの為

訂正箇所

直前の

/ コマ取消

/ コマ再撮影

訂正年月日

平成 20 年 10 月 7 日

このフィルムは、上記の理由で取消又は再撮影し訂正しました。

撮影者

伊藤 一夫

印

受託責任者

東京都港区西麻布2丁目26番30号

富士フイルム株式会社

産業機材部長

後藤 佳久

印



二〇一

文勳第一〇号

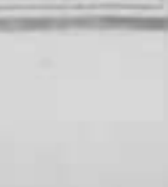
昭和十四年五月十七日

内閣書記官長

昭和十四年五月十七日内閣書記官長



内閣書記官長



内閣總理大臣

賞勳局總裁

東京帝國大學教授正五位加藤
繁ハ積年勲勞ニ依リ叙勲ノ件左
記頭書ノ通發令相成候處右ハ既
ニ大正八年六月十九日附勲八等ニ
叙シ白色桐葉章ヲ授ケラル趣ヲ
以テ該叙勲取消方主管長官ヨリ
上奏有之調査ヲ遂クルニ今更不都

349

加藤
海軍中
叙關係
桐葉章
照會シ
ヲ得候
右二者ハ
候間茲
有之

昭和十四年五月十八日 裁可

内閣書記官 稲田

賞勳局長

349

賞勳局總裁

教授正五位加藤
ニ依リ叙勲ノ件左
令相成候處右ハ既
十九日附勲八等ニ
早ラ授ケラレタル趣ラ
消方主管長官ヨリ
遂クルニ今更不都

加藤繁叙勲ノ儀支那方面艦隊司令長官
海軍中將及川古志郎ノ列ヲ以テ上奏前爲念前
叙關係ヲ調査致候處同姓同名ノ勲八等自色
桐葉章受有者アリ一應上申官廳タル文部省ニ
照會シタルニ同名異人ナル旨回答有之上奏御裁可
ヲ得候然ルニ當上奏書添付書類記載ノ經緯如ク
右二者ハ全ク同一人ナルコト判明シ其ノ旨通知有之
候間茲ニ叙勲取消上奏ノ止ムナキニ至リタルモノニ
有之

合ノ次第ニハ候ヘ共申立ノ通取消相
成様致度此段上申ス

記

裁可昭和十四年四月十二日 發令昭和十四年四月十三日
敘勳四等授瑞寶章東京帝國大學教授正五位加藤繁

文 部 省

勳四等瑞寶章

東京帝國大學教授正五位

加藤 繁

右者ニ對シ昭和十四年四月十三日頭書ノ通敍勳相成タル處同人ハ
既ニ勳八等白色桐葉章帶勳ノモノニ付今更恐懼ノ至リニ不堪モ敍
勳ノ儀御取消アラントヲ茲ニ謹テ奏ス

昭和十四年五月二日

文部大臣男爵 荒 木

貞 夫



裏面白紙

文 部 省

昭和十四年 五月二日 號

文部大臣官房 秘書課 長

賞勳局書記官殿

依 頼

本日文部大臣ヨリ上奏ノ東京帝國大學教授正五位加藤繁（寫）勳取
消ノ儀ハ別紙東京帝國大學庶務課長顯末書記載ノ通ニ有之同學總長ニ
對シテハ將來如斯コトヲ繰返サザル様其ノ取扱責任者等ニハ充分戒飭
ヲ加フル様注意置致タルニ付特別ノ御詮議ヲ以テ右御取計相煩度

めくれず

裏面白紙

文 部 省

寫

東京帝國大學
特秘第二四號

昭和十四年四月二十七日

東京帝國大學總長 平 賀

讓 印

文部大臣男爵 荒 木 貞 夫 殿

敍勳取消ノ儀ニ付内申

本年二月十七日付東大職秘第一一〇號ヲ以テ敍勳ノ儀内申致候本學敎
授加藤繁ニ對シ本月十三日付敍勳四等授瑞寶章被仰出候處同人ハ既ニ
大正八年六月十九日付敍勳八等授白色桐葉章ノ帶勳者ナルコト今般判
明致候ニ付洵ニ恐懼ノ至リニ堪ヘサル次第ニ有之候ヘ共右敍勳御取消
ノ御詮議相仰度此段及内申候也

裏面白紙

寫

顛末書

文學部東洋史學第二講座擔任教授加藤繁ニ關シ敍勳内申手續仕リ候處
同人ハ勳八等白色桐葉章ノ帶勳者タリシコト今般判明仕リ、本月十九
日初メテ、取扱主任者タル鎌田書記ヨリ右ノ經緯ニ就キ報告ニ接シ、
事ノ意外ナルニ驚キ、直チニ桑田文學部長ニ急報スルト共ニ、同人ヨ
リ始末書ヲ至急提出セシメラレ度旨ヲ申進ジ、翌二十日午前右ニ關シ
總長ニ報告仕リ候。次デ同日午後文部省ニ出頭シ、本學教授ガ如斯事
態ヲ生ゼシメタルハ本學トシテ申譯無之旨ヲ謝シ、手續ニ關スル打合
セヲ行ヒ、翌二十一日此旨、總長ニ復命仕リ候。

爾後文部當局及學内關係者ニ對シ十分事情ノ闡明ニ努メ二十五日ニ至
リ、加藤教授ヨリ、別紙始末書提出有之候間總長ノ下命ニ依リ、同人
ニ關スル二月十七日附ノ内申取消手續ヲ鎌田書記ニ命ジ申シ候。
今回ノ事ハ誠ニ恐懼ニ堪ヘザル次第ニ有之總長ノ下命ニ依リ今後萬全

文部省

ヲ期スル爲メ注意事項ヲ詳細ニ指示セル通牒ヲ學内ニ發スルノ措置ヲ
講ジ申シ候。

右顛末謹ミテ奉具陳候。

昭和十四年四月二十五日

庶務課長 江口重國

東京帝國大學總長 平賀讓殿

始末書

本年二月十七日本學文學部勤務教授加藤繁敍勳ノ儀本學履歷書ニ依リ文部大臣宛内申致候處四月五日文部大臣官房秘書課恩賞掛員ヨリ加藤繁ナル勳八等白色桐葉章ノ帶勳者アリ右ハ加藤教授ト同名異人ナルヤ否ヤ調査有之度旨電話ヲ以テ照會有之候間早速昭和三年五月十八日同人助教授任用當時ノ履歷書及文學部ニ提出ノ本人自筆ノ履歷書ニ付調査致候モ孰レモ「帶勳事項」ノ記載無之ニ依リ直チニ電話ヲ以テ其旨文部大臣官房秘書課恩賞掛員ニ回答致候尙ホ四月七日文學部庶務主任ニ至急本人ニ問合方照會致候ト共ニ横山書記ヲ文部大臣官房秘書課ニ出頭セシメ恩賞掛員ニ右調査中ノ趣ヲ申述ヘシメ候偶々學年始休業中ニテ四月十七日ニ至リ同教授ノ持參シタル右回答ニハ大正八年六月

文部省

十九日付勳八等白色桐葉章ヲ賜リタル趣翌十八日文學部庶務主任ヨリ書面回答ニ接シ候ニ付直チニ其ノ旨文部大臣官房秘書課恩賞掛員ニ回答シタルニ既ニ敍勳ノ御沙汰アリシ旨ヲ承リ深ク驚愕仕候仍テ翌十九日文部大臣官房秘書課ニ出頭シ福田恩賞掛長ト打合セ直チニ右ノ顚末ヲ江口庶務課長ニ報告シタル次第御座候右ノ次第當該主任者トシテ誠ニ恐懼措ク能ハサル處ニ御座候向後十分ノ注意ヲ致シ遺漏ナキヲ期スヘキ決心ニ罷在候

茲ニ以始末書右顚末開陳仕候

昭和十四年四月二十二日

東京帝國大學書記 鎌田 勇五郎 印

東京帝國大學總長 平賀 讓 殿

文 部 省

寫

始 末 書

小 官 儀

明治四十年十月三十一日臨時臺灣舊慣調査會補助委員ヲ命セラレ清國
制度ノ取調ニ從事シタルノ功ニ依リ大正八年六月十九日勳八等白色桐
葉章ヲ賜リ
聖恩ノ洪大ニ感激致シタル次第ニ有之候然ルニ大正十四年四月一日本
學奉職ノ際提出ノ履歷書ニ右御沙汰ヲ拜シタルコトヲ記載セス以テ今
日ニ至リタルハ悉縮ノ至ニ不堪候茲ニ謹テ始末書及提出候也

昭和十四年四月二十五日

加 藤

繁 印

裏面白紙

文 部 省

加藤繁叙勲取消件

右上奏書及進達候也

昭和十四年五月二日

文部大臣男爵 荒木貞夫

内閣總理大臣男爵 平沼騏一郎殿



裏面白紙